

5 歯科における児童虐待の早期発見の重要性

・ 歯科疾患は、自然治癒がない

内科的な疾患では自然治癒することもあり、多くの疾患ではその痕跡も全く残りません。それに対し、歯科疾患、特に歯牙疾患では、ある程度う蝕が進んだり、破折した場合には、自然に回復することはありません。

・ 治癒の痕跡が残る

歯牙疾患を治療した場合、軽度な時は困難な場合もありますが、治癒のあとははっきりとわかり、またその治療内容により、元の歯の状態の重症度もかなり推測できます。

・ 学校健診では経年変化が確認できる

学校歯科健診では、義務教育の間は必ず1枚の用紙で、口腔の状態を縦覧できます。以前からう蝕の歯牙がそのままであるとか、ある時期から急にう蝕が増えたなどが一目でわかります。

・ 歯科治療は継続することが多く保護者と関わりを持つ機会が多い

一般的な歯科治療においても、保護者に治療計画を説明したり、家庭での生活習慣について指導したりします。また多くの治療が1度では終わらないため、次の予約を取り、数回の治療で人間関係などを把握することも出来ます。

顔面、口腔、歯にみられる損傷の特徴

頭部、顔面の損傷	頭蓋損傷、外傷性脱毛、耳介部の挫傷 鼻骨骨折、咬傷
口腔の損傷	口唇の腫脹、挫傷、裂傷、口角部の挫傷(猿ぐつわ痕等)、 小帯の裂傷、口蓋粘膜、頬粘膜の挫傷
歯と歯周組織の損傷	正当な説明のない歯の破折 歯が動揺・脱臼・変色
骨の損傷等	顎骨骨折、陳旧性骨折(不適切な治療)、陳旧性骨折による不正咬合 外傷性顎関節炎、外傷後の開口障害など
う蝕(虫歯)・感染症	未処置の多発性う蝕 未処置の感染症(顎骨炎、蜂窩織炎、上顎洞炎)

(都築:Senn and Alderより改変)

ネグレクトの口腔・歯の診断における注意点

①多数の未処置のう蝕や歯肉の腫脹

子どもへ十分な食事や歯磨きをさせていない。

②口腔清掃不良による

極端な歯垢沈着や口臭など

インスタント食品や清涼飲料類など偏った食事

